

平成24年3月5日

財団法人 日本卓球協会
専務理事 前原 正浩
震災復興支援・情報収集チーム
古市 智子

報 告

(1) 震災直後

震災直後から日本卓球協会関係者には、世界の多くの卓球協会、多くの方々から、日本卓球協会と被災地卓球仲間へのお見舞い、復興への連帯の気持ちを示すメッセージが寄せられた。

(2) 震災復興支援・情報収集チーム

被災された方々、特に私たちの仲間である卓球関係者の悲しみ、困難な状況に思いを馳せ、平成23年4月2日の理事会にて、チーム設立とメンバーの決定をした。

チームとしては、被災後、苦しく厳しい環境に置かれている現地役員に連絡を取る事は心苦しかったが、まず、現地の情報を入手すべく接触を始めた。

その後、被災地を支援する活動の詳細、卓球関係品の支援策などを、今後の状況に合わせ柔軟に対応することも含め、震災復興支援・情報収集チームで決定した。

(3) 「WASURENAI 3.11」

震災復興支援のスローガンを「WASURENAI 3.11」としてロゴを作成し、このロゴを日本代表ウェアにつけ、日本代表選手も復興の願いを込めて、世界選手権大会及び国際大会に臨んだ。

また、このロゴを入れたチャリティTシャツの製作販売、このロゴを入れた横断幕を制作し、全国大会会場へ掲示した。

(4) 世界選手権東京大会招致

震災直後、卓球で復興を支援するという声内外に高まり、2014世界選手権東京大会の開催立候補が本会で4月25日に正式に決定。5月10日開催の国際卓球連盟（以下、ITTF）総会で、先に立候補していた協会がそれを取り下げ、日本・東京開催が満場一致で決定した。また、5月の世界選手権ロッテルダム大会の期間中に、お見舞い支援金の贈呈もあった。

(5) 震災義援金

義援金口座を開設し、全国の皆様、団体から多くの義援金のご協力をいただいた。平成23年6月30日迄で、「40,087,025円」の義援金合計となり、被災地の一日も早い復興と卓球活動再開のため、日本赤十字社並びに被災地各県卓球協会・卓球連盟へ送金させていただいた。岩手県卓球協会、宮城県卓球協会、福島県卓球協会には、本会から各1,000,000円の支援金を別に送金した。

日本赤十字社 22,758,049円

岩手県卓球協会 2,917,000円（別途本会より1,000,000円）

宮城県卓球協会	2,917,000 円 (別途本会より 1,000,000 円)
福島県卓球協会	2,917,000 円 (別途本会より 1,000,000 円)
茨城県卓球連盟	1,000,000 円

上記以外の義援金につきましては、被災地への卓球台支援などに使用しており、詳細については後日、報告をいたします。

なお、6月30日以降、ITTF 関係からのお見舞い支援金 5 万ドルを含め、平成 24 年 2 月 29 日までに寄せられた義援金は、合計で「48,272,720 円」となりました。

(6) 卓球台の支援

屋外用： フランス・コニヨール社から寄贈並びに廉価で分けていただき、岩手県卓球協会、福島県卓球協会、宮城県卓球協会に各 20 台を送付した。

屋内用： 日本卓球公認工業会の各社に廉価で分けていただき、宮城県卓球協会に 21 台、岩手県卓球協会、福島県卓球協会、茨城県卓球連盟に各 20 台を送付した。また、送付にも格別な協力をいただいた。

(7) 被災県への大会支援

- ① 宮城県卓球協会と協和発酵キリン 卓球部の協力の元、屋外台を用いてのイベントを仙台市にて開催。
- ② 茨城県ひたちなか市にて、被災 4 県（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の小学生、中学生、高校生が集まり開催された「絆大会」に、本会より 1,000,000 円を支援。
- ③ 岩手県卓球協会、宮城県卓球協会、福島県卓球協会の各主要大会に対し、ITTF のお見舞い支援金より各県卓球協会に 1,000,000 円ずつを支援。（『国際卓球連盟連帯大会』として開催）

(8) 被災地県卓球協会に対する特別措置

- ① 岩手県卓球協会、宮城県卓球協会、福島県卓球協会に対して、登録費減額を本会にて決定した。
※本会の決定に対する、各県卓球協会の意向を本会へは受理した。
- ② 岩手県卓球協会、宮城県卓球協会、福島県卓球協会に対し、登録人数の減少を考慮して、平成 24、25 年度の 2 年間の各大会参加枠を据え置くことを決定した。

(9) その他の支援

- ① ナショナルトレーニングセンターの卓球関係者他、本会関係者の協力により、ウェア、ラバー、ラケット、卓球台、ネット・ボール等を岩手県卓球協会、宮城県卓球協会、福島県卓球協会に送付した。
- ② 本会アスリート委員有志により、ミニ卓球台が寄贈され、贈呈式にナショナルチームの選手を派遣し、卓球講習会を実施した。
- ③ 陸前高田市で開催された卓球大会に、JOC エリートアカデミー生が参加し、現地の小中学生との卓球交流を図った。

(10) 今後への取り組み

「WASURENAI 3.11」の気持ちを持ち続け、協会事業を進めていく。